令和３年６月１０日

愛知県上海産業情報センター
林　　秀　幸

一般調査報告書
14億の人口とワクチン接種について

国内の観光客で賑わう週末の上海・外灘（筆者撮影）

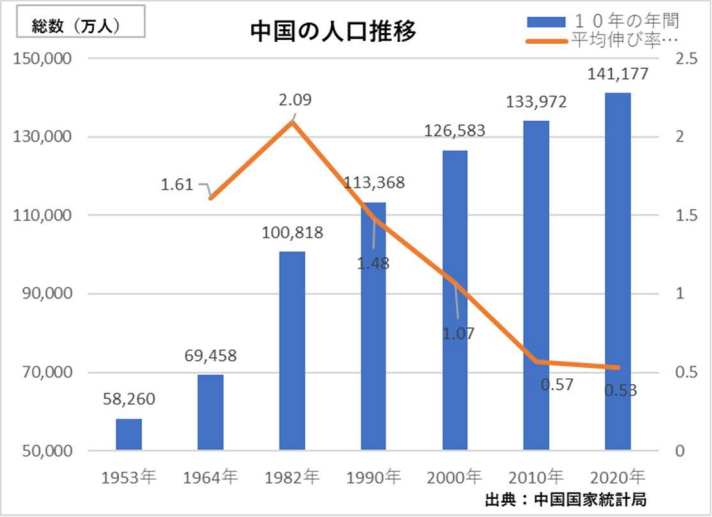
5月11日、中国政府は中国の人口を14億1,177万8,724人（2020年11月1日時点）と発表しました。10年に1度行われる国勢調査の結果によるもので、10年前の前回調査から5.4%の増加となりました。

調査は、昨年11月から12月にかけて、調査員が各戸を巡回するなどの形で行われました。外国人も世帯の状況などに関する詳細な調査を受けましたが、統計の総人口の中には含まれず、中国本土の23省・5自治区・4直轄市の居住者及び現役軍人がカウントの対象となっています。

1953年から始まった国政調査は、今回で7回目となり、1953年に5億8,260万人だった人口は約2.4倍に増加しました。23省・5自治区・4直轄市のうち、人口が1億人を超えたのは広東省（約1億2,601万人）、山東省（約1億152万人）の2省です。次いで河南省（約9,936万人）、江蘇省（約8,474万人）、四川省（約8,367万人）の順で、上位5省が全人口に占める割合は約35.1%となっています。

Copyright © 2021, Aichi Prefecture.
All rights reserved.

また、この10年で特に人口が増えた地域は、広東省（約2,170万人）、浙江省（約1,014万人）、江蘇省（約608万人）、山東省（約573万人）、河南省（534万人）の順で、主に沿海部で人口が増加している状況が伺えます。



一方で、人口の高齢化の傾向も明らかになってきました。年齢別の人口では、

0～14歳　2億5,338万3,938人（構成比17.95%）
15～59歳　8億9,437万6,020人（　〃　63.35%）
60歳以上　2億6,401万8,766人（　〃　18.70%）

となっており、60歳以上のうち65歳以上は１億9,063万5,280人で、全体の13.5%を占めています。10年前と比較すると、0～14歳の比率は1.35ポイント上昇し、15～59歳は6.79ポイント下落。60歳以上は5.44ポイント、65歳以上は4.63ポイントそれぞれ上昇しています。

2020年の人口構成比率

年齢別	人口	構成比	2010年との比較
０～１４歳	253,383,938	17.95%	1.35P↑
１５～５９歳	894,376,020	63.35%	6.79P↓
６０歳以上	264,018,766	18.70%	5.44P↑
６５歳以上	190,635,280	13.50%	4.63P↑
合計	1,411,778,724	100.00%	

出典：中国国家統計局

中国の人口は今後1～2年のうちにピークを迎え、早ければ2027年には減少に転じると予測されています。これまで中国は、人口の増加が経済の成長を後押しする「人口ボーナス期」と言われるメリットを享受してきました。この流れはまだ当分続くものとされていますが、いずれ長期的には少子高齢化を迎え、人口構成が経済の負担となる「人口オーナス期」に入ると予測されています。ただ、その時期については様々な見方があるようです。6月6日に清華大学が発表したリポートによれば、中国の労働人口は2050年まで緩やかに増加するとされており、平均寿命の伸びや教育水準の向上などが高齢化の悪影響を一定程度緩和すると予測されています。

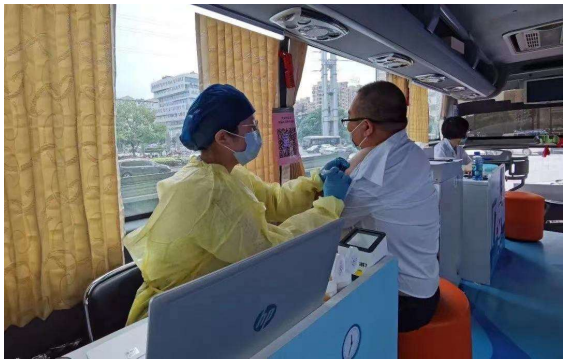
6月3日、中国政府は6月2日の時点で中国のワクチン接種回数が7億回を超えたと発表しました。当初、累計1億回から2億回に達するまでに25日間を要していたワクチン接種ですが、2億回から3億回までは16日間、5月28日に6億回を達成

愛知県
Copyright © 2021, Aichi Prefecture.
All rights reserved.

してから6月2日に7億回に到達するまでの期間はわずか5日間でした。このままのペースでいけば全人口14.1億人の8割が2回の接種を終えるまでにそれほど時間はかからないだろうと言われています。

中国は、年間50億本のワクチン生産能力があると言われており、そうした供給面の充実に加え、いつでも、誰でも、どこでもワクチンを打つことができる環境が整備されています。病院は勿論、ビルやマンションの敷地に臨時の接種拠点が設けられたり、ワクチンバスと呼ばれるワクチン接種専用のバスが各地に巡回配備されており、現在は外国人でも予約なしで接種を受けることが可能です。

ワクチンバス（写真：長寧区）



ワクチンバスの車内（写真：長寧区）

なお、接種場所に関わらず、ワクチンの接種を終えると、そのデータは瞬時にセンターに送信されます。接種者本人には、スマートフォンのアプリに接種履歴が表示され、接種日時、接種したメーカー、種類、接種回数などが一目で分かる仕組みになっています。

また、最近ではビルやマンションの入り口にビル単位、マンション単位のワクチン接種率が表示されるようになり、街を歩いていても至る所で「ワクチンの接種はいかがですか？」といった声掛けをよく見かけるようになりました。個人が接種を強要されることはありませんが、コミュニティ単位での接種率の向上が関係者の最大の関心事となっているのは確かです。

ビル入口の接種率表示

6月6日、中国では3歳以上17歳以下に対するワクチンの緊急使用が認可されたと報じられました。ただ、政府は今後の実際の使用については感染対策の需要に合わせて進めていくとしており、当面は18歳以上の接種が進められていくようです。また、中国で主流のワクチンは不活化ワクチンで2回の接種が必要ですが、先月からは1回だけの接種で済むというウイルスベクターワクチンも登場し注目を集めています。

また今月に入りもう一つ話題となっているのは、不活化ワクチンの3回目の接

Copyright © 2021, Aichi Prefecture.
All rights reserved.

種についてです。不活化ワクチンは効果が半年程度ではないかと言われていますが、3回目のワクチンを3か月から6か月後に接種すると抗体が10倍になるという臨床結果が得られたとする専門家の見解が公表され話題となりました。ただ、実際に3回目の接種を一般で開始するにはもう少し研究が必要だとしており、仮に3回目の接種が開始されるとしてもまだ少し先のことになりそうです。

いずれにせよ、中国だけでなく、世界中にワクチンが行き渡りパンデミックが収束しない限り世界経済は正常化しないと思われます。引き続き現地の状況を注視したいと思います。

参考：最近の中国内の主な動き

2021年

5月 7日 ・世界保健機関（WHO）は、中国医薬集団（シノファーム）の新型コロナワクチンの緊急使用を承認

5月14日 ・イオンモールは中国で新たに3店舗(武漢、長沙、杭州)の出店を発表。2025年までに中国内に29店舗を目指す

・中国国家体育総局は、新型コロナの感染防止のため、ネパールと国境を接するエベレスト登山の許可を一時停止

5月16日 ・上海市は、海外からの入境者に対する14日間の隔離観察について、引き続く7日間の在宅健康観察を追加する措置を開始

5月17日 ・遼寧省は、海外からの入境者に対する14日間の集中隔離+14日間の健康観察を、21日間の集中隔離+7日間の在宅隔離に変更

5月19日 ・海南省の海南自由貿易港で、ゼロ関税の輸入車１台目が通関（商用車トヨタ「ハイエース」）

5月21日 ・広東省広州市で1年ぶりに新型コロナの国内症例の感染者を確認

・雲南省大理でM6.4の地震発生

5月22日 ・青海省ゴロク・チベット自治州でM7.4の地震発生

5月29日 ・広東省広州市に「イオンモール広州新塘」が開業。中国22店目

5月30日 ・広東省広州市は、新型コロナの拡大により市外への移動を制限

・北京市は新型コロナワクチンの市内接種率が86.7％と発表

5月31日 ・政府は、1組の夫婦につき第3子までの出産を認める方針を発表

6月 1日 ・世界保健機関（WHO）は、中国科興控股生物技術（シノバック）の新型コロナワクチンの緊急使用を承認

6月 2日 ・中国南部の雲南省の自然保護区から北上を続けていた野生のアジアゾウ15 頭の群れが省都の昆明市まで到達

6月 4日 ・トヨタ自動車は、5月の中国新車販売台数が前年同月比1.5％増の16万8,900台と発表

愛知県
Copyright © 2021, Aichi Prefecture.
All rights reserved.

上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。
上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。
また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。

Copyright © 2021, Aichi Prefecture.
All rights reserved.